

会 議 録

会議の名称	飯塚市奨学資金貸付審議会
開催日時	令和6年9月30日（月）14時30分～
開催場所	飯塚市新立岩5番5号 飯塚市本庁舎 研修室
出席委員	森山 和則、円城寺 利周、大里 錦子、金丸 睦子、野口 豊
欠席委員	大津 リサ、永末 裕子
事務局職員	山田 哲史、梶原 康治、植木 園望、栗林 泰地
会議内容	1 開会 2 事務局職員自己紹介 3 審議会委員紹介 4 教育部長あいさつ 前年度質問回答 （事務局）：小論文試験は出来るだけ受けさせるべきとの意見を頂戴した。 対応策として、本試験日に加え、予備日を新たに設けた。また、奨学生の自己推薦欄を採点ポイントに加えないかという意見については、数値化できないため、窓口での助言にとどまった。 5 議題（1） 会長・副会長選出 （事務局）：立候補、推薦なしのため、森山委員に会長、円城寺委員に副会長をお願いしたい。 （各委員）：異議なし 議題（2） 令和7年度 予約募集における飯塚市奨学資金新規貸付奨学生の選考 ○事務局による配付資料の説明 （野口委員）：各審査員の採点にバラつきが見られるが、審査基準は統一しているのか。 （事務局）：統一した基準で採点しており、全審査員が全小論文採点するようにしている。 （会 長）：予備日を設けたことについて、事務局としての評価を聞きたい。 （事務局）：学校行事等により、やむを得ず欠席する学生を減らせたと考

	えている。次年度以降も継続していきたい。 (会 長)：学生の事情は多岐に渡る。効果的な取り組みとなったのではないか。また、要望として、予備日ではなく本試験日 A・本試験日 B といった言い方にならないか。 (事務局)：A 日程、B 日程といった言い方を検討する。 (大里委員)：採用・不採用の境目にいる方々は審査員の一点で当落が決まる、改めて統一した基準での審査を求める。 ○申請者（高校等区分 15 名・大学等区分 25 名）を審議し、採用又は不採用の決定及び採用次点順位の決定をした。 ○結果：高校等区分 10 名、大学等区分 20 名を採用。 6 その他 (野口委員)：次年度以降の検討事項として提案する。修学支援金の制度を利用すると場合によっては私立高校の生徒より、公立高校の生徒の方が負担が重くなる場合がある。そのため、公立高校の生徒も奨学金の対象に加えてほしい。 (副会長)：付け加えると、特に山間部や交通の便が悪い地域では、私立高校は送迎バスなどあるが、公立高校はそういったものが無く、定期代等も高くついている。 (会 長)：要望一点申し上げる。難しいとは思うが、完全給付型の奨学金にしてほしい。 (事務局)：基金で行っている以上プラスになるような収入がない。最近対象者を 2 名増加したばかりであるため経過を見ながら制度設計については検討していく。 7 閉会
会議資料	議題（１）及び添付資料（個人情報掲載のため会議終了後回収）
公開・非公開 の別	1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者 人)
その他	個人の所得情報等保護のため非公開